

北、ICBM級発射



8日、平壤の金日成広場で行われた軍事パレードに登場した片側9輪の発射台付き車両に搭載された新型のICBM(朝鮮通信=共同)



※排他的経済水域(EEZ)
■日本政府、韓国軍による。
方向はイメージ

北海道沖EEZ内に 昨年11月以来、被害なし

防衛省は18日、北朝鮮が同日午後5時21分ごろ、平壤近郊から大陸間弾道ミサイル(ICBM)級ミサイル1発を発射したと発表した。ミサイルは約66分間飛行し、北海道渡島大島の西方約200キロの排他的経済水域(EEZ)に落下したと推定される。航空機や船舶の被害は確認されていない。

北朝鮮によるICBM級ミサイル発射は、昨年11月18日に新型ICBM「火星17」を発射して以来。対北朝鮮で連携を深める日米韓に對抗し、核・ミサイル開発を続ける姿勢を鮮明にした。防衛省によると、ミサイルは最高高度約5700キロで、約900キロ飛行した。日本政府は北朝鮮に厳重に抗議し、強く非難した。国家安全保障会議を開催する。

韓国国防省は17日、3月中旬に大規模な米韓合同軍事演習を実施するのに先立ち、北朝鮮の核使用を想定した机上演習を今月22日にワシントンで行うことを発表した。ミサイル発射は米韓演習をけん制する狙いもありそうだ。

北朝鮮外務省は17日に談話を出し、米韓が演習を行えば「前例のない強力な対応に直面することになる」と警告していた。

北朝鮮による弾道ミサイル発射は1月1日以来で、今年に入ってから2回目。(東京、ソウル共同)